

日本万国博覧会記念基金事業

世 世界各国で助成が活かされています。
過去50年間に日本万国博覧会記念基金の助成を活用して建設された海外の施設についてご紹介します。

<第6回> イタプア国際文化会館 (パラグアイ)



イタプア国際文化会館は、パラグアイの首都アスンシオンから約360km、エンカルナシオン市から約40km 地点に位置するラパス移住地にあり、ラパス日本人会が管理・運営している施設です。万博記念基金では、2001年度にイタプア国際文化会館の建設に助成を行いました。

イタプア国際文化会館の管理・運営をしているラパス日本人会・事務局長の吉田秋恵さんに、イタプア国際文化会館についてご紹介いただきました。

助成年度	助成事業名	助成事業者	金額
2001年度	イタプア国際文化会館の建設	ラパス日本人会	2,000万円

イタプア国際文化会館は、2001年度に日本万国博覧会記念協会の補助と地元市役所、各県人会、農協、地元の日系人会員の協力によって建築されました。この素晴らしい施設は、その誕生以来、ラパス移住地の重要な拠点となり、さまざまな活動に利用されています。



外観



落成式

冠婚葬祭の会場として利用される一方で、学校行事やスポーツイベント、国際色豊かな文化イベントにおいてもその存在感を発揮しています。ここでは、ミニ移住資料室や婦人部室、そして700名収容可能なホールなどが整備され、地域社会がさまざまな目的で利用できるようになっています。

特に、青少年のスポーツ



スポーツ施設

練習においては欠かせない場所として、地元の若者たちにとって重要な場となっています。スポーツを通じて友情や協力の精神を培い、地域社会全体の健康促進に寄与しています。

また、各種イベントでは、日系人をはじめとする多様なコミュニティが参加し、お国の文化を披露する貴重な場として活用されています。これにより、異なる文化や伝統が交流し、地域社会がより豊かで多様性に富んだものとなっており、またラパス市役所の重要なイベントにも多く使用されています。

2025年にはラパス移住地が入植70周年を迎えます。この特別な節目において、イタプア国際文化会館を中心にさまざまなイベントやプログラムを企画し、周年祭を盛り上げていきたいとの意欲が高まっています。これからも、地域社会との一体感を大切にし、文化の交流と発展を促進していくことが期待されます。



日本の文化などを披露



さまざまなイベントに利用

写真提供 ラパス日本人会

助成先の事業紹介 2023年度助成事業の中から、事業者より寄せられた内容をご紹介します。

木造システムを使用したマイクロ応急住宅建築

事業者：国立林業エクセレンスセンター(チリ) 助成金額：230万円
 実施期間：2023年4月3日～2024年3月29日 実施場所：チリ・カトリック大学 建築・デザイン・都市研究学部

本事業は、災害リスクの削減、災害時の対応や木造の建築方法について日本から学び、その技術をチリおよびラテンアメリカの他の地域に応用できるようにすることを目的に、緊急事態に対応できるミニマムな住宅のプロトタイプ的设计から製作までを行い、その成果物を展示するものです。2023年5月29日から6月2日までの間は、チリの3つの大学(チリ・カトリック大学、サンティアゴ大学、フェデリコサンタマリア工科大学)とアルゼンチンのコルドバカトリック大学の学生を対象に、仙台に拠点を置く非営利団体Alliance for Humanitarian Architecture (AHA)の創設者である日本人建築家の吉川彰布氏を講師に招聘し、日本の建築システムをチリの状況に適應させることを模索するワークショップを開催しました。ワークショップ期間中は学生3～5名と指導教授1名でチームを編成し、テーマに取り組み、ワークショップ最終日には各チームによるプロジェクトのプレゼンテーションを行いました。



ワークショップの様子



ワークショップの様子

第38回宇宙線国際会議

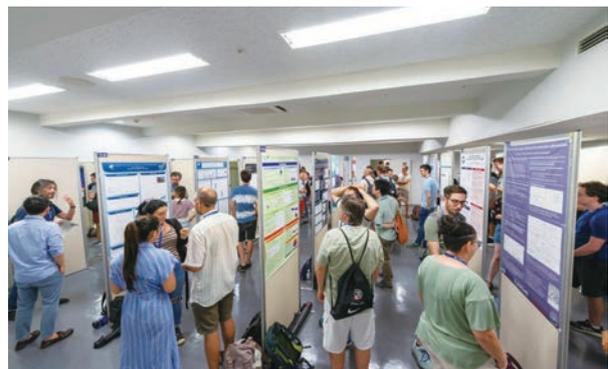
事業者：第38回宇宙線国際会議組織委員会 助成金額：160万円
 実施期間：2023年7月26日～8月3日 実施場所：名古屋大学 豊田講堂、野依記念学術 交流館ほか

第38回宇宙線国際会議は2023年7月26日から8月3日までの9日間、名古屋大学で開催されました。本会議は隔年開催で、前回の第37回はオンライン開催のため、今回は4年ぶりの対面開催となり、44か国から1,099人の現地参加(国内257人、国外842人、その他330名のオンライン参加)を得ることができ(当初見込みは35か国から現地参加600人、オンライン参加600人)、1,500を超える講演が行われました。

近年の宇宙線分野では、今回対象研究分野に加わった「重力波」観測の急速な発展、宇宙ニュートリノ観測の展開、地上ガンマ線観測エネルギーsub TeVからPeVへの拡大と起源天体の数・種類・知見の増大、最高エネルギー領域宇宙線観測の進展、暗黒物質探査の高精度化、これらと多波長天文学を融合したマルチメッセンジャー天文学の展開、と多くの進歩があり、本会議でもこれらの点を中心に活発な研究発表と議論が行われました。

また、7月30日には同会場で一般講演会が開催され、ノーベル物理学賞受賞者の梶田隆章氏による講演が行われました。

万博基金からの助成金のおかげで、現地参加の学生参加費の減額や、発展途上国からの参加者への支援(参加費免除)の拡充が可能となりました。



ポスターセッションの様子



国際会議の様子

第5回東京国際合唱コンクール

事業者：一般社団法人東京国際合唱機構
実施期間：2023年7月27日～30日

助成金額：300万円
実施場所：日本橋公会堂（7月27日）、第一生命ホール（28日～30日）

本事業は4日間の日程で、初日はコンクール出演の4団体によるプレコンサートとして東京国際合唱祭2023（入場者数100名）、2日目以降はコンクール本選で、2日目はシニア・児童合唱（13歳以下）・児童合唱（18歳以下）・学校合唱・フォルクローア各部門（入場者数767名）が、3日目は室内合唱・ユース・同声合唱・混声合唱各部門（入場者数541名）が、最終日は混声合唱・現代合唱各部門およびグランプリコンクール（入場者数746名）が行われました。

大会期間中、国内60団体950名、海外7か国・地域（インドネシア・中国・香港・台湾・フィリピン・韓国・デンマーク）18団体650名の合計78団体1,600名が、海外から招聘した国際審査員による世界水準の審査のもと、白熱の演奏を披露しました。各団体の演奏後および表彰式は、拍手や賞賛の音が鳴りやまず、国を超えてお互いを讃え合いました。

グランプリは児童合唱部門（13歳以下）に出場したインドネシアの合唱団が受賞しました。インドネシアのメディアおよびフィリピンの外務省ホームページにて合唱団の活躍および当コンクールのことが広く報道されました。

万博基金による助成で、諸物価高騰に伴う国際審査員渡航宿泊費やパンフレット・リーフレット印刷費の増額分を賄うことができました。



合唱コンクールの様子



受賞者の様子

フィンランドと静岡をつなぐSDGsプロジェクト

IT技術を駆使した気候変動とそれに伴う自然災害へのリスクマネジメントに向けて

事業者：静岡大学国際連携推進機構
実施期間：2023年8月7日～9日、21日～26日

助成金額：112万円
実施場所：静岡大学静岡キャンパス、静岡市産学交流センターほか

本事業は、「静岡×減災×ICT」を主題とする、9日間にわたる英語によるSDGsサマープログラムです。3日間のオンライン事前研修の後、静岡市内を主な会場として、座学、グループワーク、フィールドワークを織り交ぜたPBL型（Project Based Learning：問題解決型学習）の教育プログラムを提供しました。その結果、静岡大学の学生、フィンランド・オウル大学の学生、留学生、地元の高校生などを中心に55名の参加者を得て、活発な意見交換・情報発信・国際交流がなされました。

本事業は日本万国博覧会記念基金の助成をはじめ、静岡県、静岡市、フィンランド大使館からの後援、さらには建設システム、静新SBSグループ、清水建設、ノキア・ジャパン、仙台市からの事業参画・協力をいただいたことで、産学官が連携した画期的な国際連携プログラムとして実を結ぶことができました。これらは日本万国博覧会記念基金による助成事業であるという信頼基盤の上に成立したものであり、実施にあたり公益財団法人関西・大阪21世紀協会の方々からも関連事業の紹介や助言の数々をいただきました。本事業の成果をもとに今後も引き続き静岡から国際交流の機運を醸成し、新たな取組を発信していきたいと考えています。



サマープログラムの参加者



サマープログラムの様子

陸前高田アーティスト・イン・レジデンスプログラム2023 ～アートとてらす 持続可能な地域の未来～

事業者：陸前高田AIR実行委員会
実施期間：2023年9月18日～11月18日

助成金額：170万円
実施場所：岩手県陸前高田市

このプログラムは、震災復興の先を見据えた持続可能なまちづくりに取り組む陸前高田市において、アーティストと地域住民が未来志向のエネルギーを交感しあう場づくりを行うことを目的として実施しています。2023年は、タイ、フィリピン、ラトビアから3名のアーティストを招聘し、約1か月の滞在期間中に創作活動と地域との交流をしていただきました。今回、初の試みとして、地元の高田第一中学校の全校生徒（188名）を対象に、各学年に1人ずつアーティストがつき創作ワークショップを行いました。2学年は、生徒1人ずつが地元の松や愛宕山をモチーフにしたキャラクターを紙に描き、切り抜いたキャラクターと、切り抜かれた紙をつかって全体でアートをつくる試みを行い、それぞれが想像力を膨らませながら取り組んでくれました。滞在期間の終盤には、市内横田地区にある小学校の旧校舎を利用して各アーティストの創作物を公開するオープンスタジオを開催しました。ワークショップに参加した中学生の来場もあり、小規模ながら良い交流の場となりました。

東日本大震災やコロナ禍を乗り越え、地域の未来を切り開いていこうとするタイミングで、万博記念基金に採択いただいたことで、大変充実したプログラムが実施できました。



オープンスタジオの様子



フィリピンアーティストが陸前高田を舞台に制作中の映画

アフリカマンガ展 – Comics in Francophone Africa –

事業者：京都精華大学（京都国際マンガミュージアム）
実施期間：2023年10月26日～2024年2月18日

助成金額：220万円
実施場所：京都国際マンガミュージアム

本事業は、アフリカのマンガに注目する日本初の「アフリカマンガ」の展覧会です。日本ではまだあまり知られていないアフリカのマンガ文化と市場を理解するための初めの一歩として企画された本展覧会は、アフリカのなかでも、ヨーロッパで最大のマンガ市場を持つフランスの影響を大きく受けた、フランス語圏アフリカ諸国のマンガに注目したものです。本展はフランス語圏アフリカの紹介から始まり、15名のアフリカ人作家による作品や現地でのイベントの様子が展示されたほか、アフリカにおけるマンガの歴史や日本のマンガの影響、現地の出版状況などについても触れられました。「アフリカマンガ」という題材の珍しさゆえに、国内外から多くの方が展示会場に足を運び、盛況となりました。

展覧会の関連イベントとして、アフリカ出身のマンガ家を招いたシンポジウムやトークショー、アフリカの伝統文化を体験するワークショップが行われ、マンガ文化にとどまらず、アフリカの文化に対する理解を深められる機会を作ることができました。助成事業として採択されたおかげで、大規模での開催が可能になり、より充実した企画になりました。



トークショーの様子



(撮影：衣笠名津美)

展示の様子